事例報告　Ｈ２９－６(1)

団体名：　　橋本市立清水小学校（橋本ひだまり倶楽部）　（和歌山県）

プログラム名：　郷土の森の森林体験からふるさとの自然を考えよう	
（１）プログラムの目標	自分達の周りの地域（ふるさと）の人々とともにさまざまな体験をすることで、地域の自然や産業に関心をもつとともに、地域の環境保全や生活向上のために自分達が現在及び将来にわたって出来ることを考え、実践することを目標にしている。 ４年 橋本ひだまり倶楽部と連携して、橋本市運動公園の近くの「郷土の森」での森林探検、木工体験、竹林伐採体験を実施し、森林の中で活動することを楽しむとともに、地域の自然環境の保全に関わっている方々と出会い、環境を保全することの大切さを学ぶ。
（２）プログラムの概要	本校では、地域の自然環境に応じた人々の暮らしや後世に伝えるために維持管理している人々の思いに触れ、自己の生き方について考える子供を育てていきたいと考え、全学年を通じてふるさと学習を実施している。 ４年生は、ふるさと学習の一環として、県緑育推進事業やみどりの募金事業を活用して、郷土の森で森林体験や木工体験、竹林伐採等を行ってきたことについてまとめる。

（３）プログラムの展開

時間数	プログラムタイトル 活動内容	指導・支援の方法、ポイント等（教材等） ｉｎ、ａｂｏｕｔ、ｆｏｒ　の視点で活動内容を区分
7	木工体験（１０月）	
	①小刀で鉛筆を削る。 ②和歌山県のヒノキ板を使って、プランターボックスを作る。 ③間伐材を使って炊いたかまどご飯をいただく。 	①小刀の使い方について指導する。他人を傷つける可能性があることを徹底して指導する。 ②ノコギリ、カナヅチを使うので、安全面で十分配慮する。正しい使用法について、見本を示しながら丁寧に説明する。工程ごとに説明して、進度を確認する。 ③かまどで炊いたご飯や豚汁をみんなで分けて食べる。
	in　木工体験で、和歌山県の木材の活用についての関心を高める。	
4	森林探検（１０月、１２月）	
	①森林探検では、五感を使って森の中の鳥の声や匂い、感触などを楽しむ。 ②森林にはイノシシやリスなどの動物が生活していることや人間の生活との関わりを知る。 ③秋と冬の野山を比較し、違いに気付かせる。 	①森の中の危険について知らせる。 森を歩く心地よさを十分に味わえるよう声をかける。 ②森の中には食べられる木の実や草の実がたくさんあることやイノシシのぬた場があり、動植物の生活があることを知らせる。一方で、近くのゴルフ場からたくさんゴルフボールが飛んでくるなど、人間の暮らしとも近いことを知らせる。 ③草の実や枯れ葉の様子等、１０月の山との違いから季節の移り変わりに気付かせる。
	in　森林探検で自然林に触れ、森林に関する関心を高める。	

3	竹林伐採（１２月）	
	竹林伐採を行う。 間伐の重要性について学ぶ。 	間伐の必要性について指導する。 ノコギリの扱い方について十分指導する。 切り株や切った竹を倒す方向に注意する。 切った竹は枝を払い、持ち帰りやすい長さに切ることを指導する。 周囲の児童に当たらないよう気をつけて竹を持つよう指導する。
	about　森林の役割や間伐の必要性についての知識・技能を学ぶ。	
2	校庭の美化（１２月）	
	郷土の森で作成したプランターボックスを利用して、校庭を花で飾る。 	卒業生を送るための作業であることを伝える。 地域の方が種から育てたパンジーであることを伝える。
	for　自分達が作ったプランターボックスが卒業生を送るために役立っていることを知る。	

（４）プログラムでの連携内容

（教育機関、地域、団体等での、①連携・協働先、②役割分担、③具体的な連携・協働の内容）

①連携・協働先：橋本ひだまり倶楽部
②役割分担：児童に体験させたいこと、考えさせたいことについて学校とひだまり倶楽部で協議し、ひだまり倶楽部がプログラムを作成している。
　当日までの材料の準備・郷土の森の点検・昼食の準備等は、ひだまりクラブが行う。
　当日は、スケジュールに従い、ひだまり倶楽部の指導者が体験の指導をする。引率教員が児童管理を行う。
　振り返りを行い、次年度の改善につなげる。
③木工体験・森林探検と竹林伐採を２日に分けて行っている。
　学校行事等と調整して日程・内容を決定している。
　児童の状況にあわせて、毎年少しずつプログラムを変えている。
　過去３年間は本立てを作成したが、平成２９年度は、より製作が難しいプランターボックス作りに挑戦した。

（５）活動の分析（学習指導要領との関連または森林環境教育の視点） 上位３項目

教科・項目、視点	学習内容
「感性的経験」 森を体験する 森を楽しむ	森に入り、木や土の香り、鳥の声、日なたと日陰の気温の違い等を楽しむ。 展望台から自分達の地域を見下ろす俯瞰の感覚を楽しむ。 倒木を乗り越え､枝をくぐり、道なき道を探検する感覚を楽しむ。 怪我やスズメバチの危険について知る。
「自然的特性」 植物や動物の生態を知る 自然の変化に気付く	広葉樹中心の郷土の森を、秋と冬の２回に分けて森林探検を行うことで、季節の移り変わりや自然の変化に気付く。 指導者から、植物や動物の生態について説明を受け、日陰や日なたなどそれぞれの特性に応じた生き物の生態に気付く。 栗、しいたけ、冬イチゴなど自然の恵みをいただくことで、人間と自然の関わりについて考える。
「管理・維持」 森林の役割を学ぶ 間伐の必要性	竹林伐採を実施し、間伐の必要性について学ぶ。 間伐材を利用したプランターボックス製作から、森林資源の活用について学ぶ。 イノシシのぬた場やゴルフ場から飛んできたゴルフボールから、環境を保全することの大切さを学ぶ。

（６）活動の分析（資質・能力の視点）

項目	ＥＳＤの要素（７つの能力・態度）の視点で見つめ直して、 もっとも重視する視点の内容を記載してください。
①生きて働く「知識・技能」の習得	５　他者と協力する態度 プランターボックス作成で、板から部材をノコギリで切り出す際に、寸法を測る・板を押さえるなど協力して作成することで完成させることが出来る。 竹の伐採の際に、竹のどの部分にノコギリを入れるのが良いか話し合い、切り方・倒す方向についても互いにアドバイスすることができる。 間伐して短く切った竹を、長さや重さから誰が持つかを考え、協力し合って持ち帰る。
②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	４　コミュニケーションを行う力 指導していただく大人への挨拶、礼など日頃固定された生活の中でなおざりにしがちな礼儀について、意識する。 初めての体験をするときには、指導者の説明を集中して聞く態度を身に付ける。 説明を自分なりに理解し、危険のないように作業を組み立てることが出来る。 わからないことは積極的に質問したり、意見や感想を自分の言葉で発表できる力を養う。
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養	３　多面的・総合的に考える力 森には楽しいこともあるが、転落やスズメバチなどの危険もあるなど、危険を予測した行動を取る必要性を学ぶ。 間伐の必要性や森林資源の活用について学び、森林環境保全のために自分達が地域で出来ることは何かを考えさせる。

（７）実施後、参加者の変化

活動は４年目になり、定着している。４年生になると、郷土の森に行けることを楽しみにしている。「森林探検が楽しかった」、「冬イチゴがおいしかった」、「来年も来たい」という声が毎年聞かれる。
毎年、全校児童が行っている秋の遠足「国城登山」で、途中に見られる山に対する見方が変わった。（イノシシのぬた場、食べられる木の実、間伐、ポイ捨てのゴミ等）
自分達が作ったプランターボックスを卒業生のために使えることを楽しみにしている。

地域学習への取組

和歌山県　橋本市立清水小学校

学校の概要

南は紀伊山地、北は紀の川に挟まれた平地の少ない地域です。

年々児童数が減少しており、本年度は全校児童８９名で各学年１クラスずつの小規模校です。子どもたちは、素朴で素直で学年の枠を超え、仲良く遊ぶ姿が多くみられます。

校の周りは自然が多くふるさと学習には適した環境にあると考えています。

教育方針

やさしく　よく学び　たくましく生きる子どもの育成

- やさしく思いやりのある子ども
- 進んでよく学ぶ子ども
- たくましい子ども

研究主題

目的をもって主体的に活動に取り組み、学びあい深めあう児童の育成

環境保全の推進

身近な環境に意欲的に関わり、より良い環境づくりや環境保全に配慮した望ましい行動をとれる子どもの育成を図る。
学習環境の整備、校舎内外の整備・美化、環境教育の推進、地域学習の推進

地域の方々との連携・交流、保護者との連携・啓発

ふるさと学習

地域の先生

郷土の森の体験

ふるさと学習

1年生　かに捕り

2年生　町探検

3年生　柿の観察

4年生　史跡調査

5年生　田植え

6年生　黒河道

地域の先生

１年生　工作

２年生　盆踊り

３年生　グラウンドゴルフ

４年生　西行庵

５年生　しめ縄作り

６年生　へら竿

郷土の森の体験　４年生

成果

① 普段の生活を振り返る機会となった。
② 地域の自然を見る視点がかわった。
③ 環境保全について考えが深まった。
④ 子供達はいつもと違う姿をみせた。

課題

① 自分達の生活と森林との関わりについて考える。
② 間伐の必要性について考える。
③ 自分達に出来ることを模索してみる。
④ 校区での活動に広げる。

事例報告　Ｈ２９－６(2)

団体名：　　橋本ひだまり倶楽部（橋本市立清水小学校）　（和歌山県）

プログラム名：　子ども力（こどもりょく）　小学生だって竹林整備!!	
（１）プログラムの目標	①　市内にある森林に足を運び、身近に存在する自然の豊かさを知る。 ②　森林体験により、四季を感じ、自然の面白さや変化を感じる。 ③　和歌山県の木材を利用し、森を活かし（木工・ホダギ作り）を実践する。 ④　森林整備を行うことで、道具の使い方や身近な危険を知る。 ⑤　森の中に流れるゆったりした時間の流れ感じ、再度、森に来たいと感じる。 ⑥　森林に関わる地域の人達によって、愛される森林づくりをしていることを知る。
（２）プログラムの概要	①　和歌山県内の小学１年から６年生を対象に、補助金を利用して体験活動を行う。 ②　団体が持つプログラム内容を提示し、学校と協議の上、森林体験の内容を決める。 ③　活動プログラムの日程・時間配分・持ち物を明確にし学校と摺合せを行う。 ④　事前学習・事後学習、事後体験活動の　いずれかの内容をプラスして決める。 ⑤　活動に伴う危険と危険回避の方法について学ぶ。 ⑥　自力または協同作業で、木工やホダギ作りを行う。 ⑦　森林の散策を行い、季節によって自然環境が変わることを目の当たりにする。 ⑧　竹林整備・樹木伐採、階段造り、薪拾いを行う。 ⑨　森林体験活動の感想を文字にして振り返る。

（３）プログラムの展開

時間数	プログラムタイトル	
		指導・支援の方法、ポイント等（教材等）
	ｉｎ、ａｂｏｕｔ、ｆｏｒ　の視点で活動内容を区分	
７時間	１０月　和歌山県の木材を利用して木工作品を完成させよう！	
	①活動全般の注意を話す。 ②小刀を使った鉛筆削りを行う。 ③木工に必要な道具の使い方を学ぶ。 ④講師より木工作品の製作手順を説明。 ⑤木工作品を製作する。 	①季節や天候によって、森の危険性を知る。 ②小刀で危険な道具の基本の使い方を習得する。 ③道具は、専門職から正しい使い方を学ぶ。 ④製作の流れを説明し、ポイントを押さえる。 ⑤学年以上の忍耐力と集中力が発揮できる。
	in	
３時間	１０月	
	①雨天以外、全ての活動を屋外で行う。 ②屋外は鳥のさえずりや木々を揺らす風音を感じ、ゆったりした気分で過ごす。 ③休憩時間は、森で自由に遊ぶ。 ④木工製作の合間の息抜きに冒険タイム。 ⑤森で食べる昼食は景色がご馳走! 	①自然の中で過ごす爽快感を味わう。 ②森の心地良さや、学校の教室内での事業との差別化・児童の最小限のストレスを考慮。 ③森の中では各々が自覚を持って行動する責任感を持つ ④遊びを見つけ出していく積極性を養う。 ⑤屋外での食事の美味しさの根源を知る。
	about	

2時間	12月　小学生だって竹林整備!!（事後体験活動）	
	①雨天決行でも行う。 ②２人１組のペアを作る。 ③斜面でノコギリを使って竹林伐採を行う。 ④倒した竹の枝払いを行う。 ⑤適当な大きさに切り運ぶ。 	①合羽・長靴の準備を事前に案内し、雨天に備える。 ②共同作業は、互いの協力が必要であることの認識 ③竹林伐採は、声掛けや足場に注意を払う。 ④枝払いを行い、片付け作業まで行う。 ⑤自分達が伐採したことの達成感・満足感を得る。
	in	
2時間	１２月　森林散策・感想文	
	①森の中をゆっくり散策。 ②１０月の森の自然との違いを実感する。 ③フユイチゴの食べ放題。 ④森の土と校庭の土の違いを学ぶ。 ⑤感想文を書いて森林体験を振り返る。 	①自らが五感を感じ習得していく。 ②季節によっての森の自然の変化を発見する。 ③根から採らないこと・自然の恵みに感謝する。 ④落葉で作られている腐葉土について知識を得る。 ⑤感想文にまとめることで改めて森林体験を再認識する
	for	

（４）プログラムでの連携内容

（教育機関、地域、団体等での、①連携・協働先、②役割分担、③具体的な連携・協働の内容）

①連携・協働先

和歌山県伊都振興局林務課　教育委員会　橋本市内小学校　橋本ひだまり倶楽部

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

②役割分担　③具体的連携・協働の内容（プラン１）

（ア）和歌山県伊都振興局林務課から教育委員会に、次年度紀の国緑育推進事業を案内
（イ）教育委員会→各小学校へ紀の国緑育事業の募集を案内
（ウ）各小学校より、教育委員会へ緑育事業参加希望を連絡
（エ）教育委員会から連絡のあった小学校・橋本ひだまり倶楽部間で事業内容について打合せ
（オ）橋本ひだまり倶楽部から、教育委員会へ見積書提出
（カ）内容について、和歌山県伊都振興局・教育委員会・橋本ひだまり倶楽部で三者打合せをする場合あり
（キ）採択後、小学校・橋本ひだまり倶楽部で、実施日の詳細を打合せ
（ク）橋本ひだまり倶楽部会員と緑育事業内容・実施日について打合せを行う
（ケ）緑育事業実施日は、和歌山県伊都振興局の抜き打ち見学がある。
（コ）事業終了後、橋本ひだまり倶楽部から教育委員会へ、事業報告書・請求書提出

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

②小学校が独自で補助金申請し、教育委員会を通さないで森林体験事業を行う（プラン２）

（ア）小学校が、森林体験補助金（緑の募金事業）を独自に選択
（イ）小学校より、橋本ひだまり倶楽部に事業内容・見積書作成依頼
（ウ）小学校は、市農林振興課へ補助金申請書を提出。
（エ）市農林振興課→和歌山県伊都振興局林務課へ、補助金申請書提出。
（オ）採択後、小学校と橋本ひだまり倶楽部で事業内容等打合せ。
（カ）橋本ひだまり倶楽部会員と事業内容・実施日について打合せを行う
（キ）事業終了後、橋本ひだまり倶楽部から小学校へ請求書提出
（ク）小学校は、補助金の事業報告書を市農林振興課へ提出。

（５）活動の分析（学習指導要領との関連または森林環境教育の視点） 上位３項目

教科・項目、視点	学習内容
１生活・理科 自然的特性	１年生から４年生までに習う理科の中で、生き物・昆虫・植物の観察や知識を学ぶ上で、実際に森林に足を運ぶことが必要。日常生活の中で、森林や昆虫、植物などに接することが少ない児童にとって、森林は、感性を磨く生きた教科書である。
2 生活・理科・社会 感性的特性	感性は、教科書を勉強しただけでは得られないものである。自然に触れることも学習の一環として導入していただきたい。体験することで、目の当たりに、感性を研ぎ澄ますことが出来る。学習指導要綱の内容に照らし併せた学習と、森林体験が今後の重要な課題である。
3 社会・理科 管理・維持	森林問題を社会の課題として捉えていない日本の現状については、生徒だけでなく、大人も含め、日本全体の現在の問題である。幼い頃より森林に親しみ、見て触れて感じる経験など、森林環境についての意識が少ないことを感じる。知識の習得に励むことが優先される学習の中に、森林の現状・維持・管理について学びたい。

（６）活動の分析（資質・能力の視点）

項目	ＥＳＤの要素（７つの能力・態度）の視点で見つめ直して、 もっとも重視する視点の内容を記載してください。
①生きて働く「知識・技能」の習得	①　年間に数回の森林体験を通じて、小学生に生きる力を具体化するのは難しい課題です。森林体験や活動をしたから、すぐに成果や結果を求めるのではなく、長い年数を掛け、活動を継続していくことが大切ではないでしょうか。 ②　道具の基本的は使い方、危険回避については、クセがつく前に正しい基本の使い方を教えるのが適切です。
②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	①　ＥＳＤとは「持続可能な開発の為の教育」の意味が一般には理解しにくい言葉です。未知の状況にも対応できる３つの「〇〇力」の育成は、単発・短時間学習では決して養われるものでないと思います。長期継続して森林ＥＳＤを行う意思があるかどうか、教育機関の問題かと思います。教育委員会や学校等の教育機関が、如何に児童の為に、長期に亘り、取り組む姿勢があるかどうかが重要課題ではいでしょうか。
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養	①　森林体験をした結果、心に残ったことや「再度来たい!」というきっかけを活かしてあげることができたら、学びにつながっていく通過点の役割は多少担えます。 しかし、学びを社会や人生に活かす人間性の涵養には、やはり森林体験だけでなく、どんなことでも継続していかなければ、一過性のものに終わってしまいます。森林ＥＳＤで、児童の人生や社会に結び付けること＝継続した教育指導が必要かと思います。

（７）実施後、参加者の変化

①　身近な場所に安全な森林の存在を知ることが出来た。
②　季節によって森林の自然環境が変化することを体験できた。
③　森の樹木や木の実、薪を使って煮炊きや暖をとる、灰の活用等、の循環を学べる。
④　森に来ることで元気になり、緊張感も生まれ、挑戦心や協調性が今まで以上に養われる。
⑤　森林体験をすることが「楽しい、また来たい!」になり、次の新たな実践に繋がっていく。

森林ＥＳＤ活動報告　**橋本ひだまり倶楽部**

事例報告　Ｈ２９－７

団体名：　　土地に根ざした学びの場・まるやま組　（石川県）

プログラム名：　よぼし子の森　～ムラからマチへつながり、かかわり、ひろがる～	
（１）プログラムの目標	（まるやま組） 地元小学校への環境教育支援を通じ、学校と地域双方が活力を得て、新たな里山のあり方を模索するような土地に根ざした学びの場の構築。 （三井小学校） 三井の自然についてより詳しく学ぶことで、自然を守ることや生かすことの重要性について知るとともに、今後の自然や地域への関わり方や自分の生き方について考えることができるようにする。
（２）プログラムの概要	輪島市三井町は能登半島の里山にある椙（能登ヒバ）の林業で栄えた集落である。三井小学校（全校児童22名）の周辺には林業、漆器業、紙漉など森に関わる達人が多くいる。また森林組合や木の葉をつま物に使う老舗旅館、生態学者のいる大学などもある。本プログラムでは地域の多様な人材を先生として、三井の森をフィールドに生物文化多様性を生かした体験的な活動を行う。学年ごとにテーマを持ち、活動後は概要を写真集としてまとめ、学校用に保存・活用する。1・2年:自然と親しむ、3・4年:森の生き物調べ、5・6年:森の経済価値、全学年:三井の森と金沢の街の関わり（遠足）H28年度から石川県森林環境税を活用した子ども森の恵み事業に採択され実施中。

（３）プログラムの展開

時間数	プログラムタイトル 活動内容	指導・支援の方法、ポイント等（教材等）
	ｉｎ、ａｂｏｕｔ、ｆｏｒ　の視点で活動内容を区分	
2	1・2年　自然と親しむ（@まるやま）	
	・モリアオガエル,アカガエルの観察 ・オオバコ綱引き ・フキの葉の柄杓で水遊び	まるやま組でモニ1000里地調査でアカガエルの調査を行っているフィールドを生き物マイスターが案内した。森に接した田んぼに棲むカエルの産卵などを見て命の不思議さを感じる。田植えで水を引くことで産卵できるようになる人と生き物の関わりを伝える。教材：まるやま本草
	ｉｎ（～の中で）－　体験、観察、製作など（関心・意欲、知識・技能）	
2	3・4年　森の生き物調べ（@まるやまの栗園）	
	・栗の木の花や葉、昆虫の観察 ・剪定の仕方、挿し木など体験 ・バードコール作り 	長年栗の栽培を行う農家さんが栗山を案内した。児童には栗の木を見る前に花や葉の形を紙に描いてもらい、実際と比べた。栗の木の手入れをすることで優良な品種になることを学ぶ。後に秋に大きな栗の実を農家さんからプレゼントしてもらう。栗の剪定枝を使ってノコギリで切りバードコールを作った。
	ｉｎ（～の中で）－　体験、観察、製作など（関心・意欲、知識・技能）	
4	5・6年　木の経済価値（@森林組合、製材所、住宅建築現場）	
	・原木置き場で採寸 ・市場を見学 ・原木から角材へ ・柱となって住宅に使用	集落にある森林組合に運ばれた原木がどのように流通していくのかを見学した。大きさや樹種による価格を理解した。製材所では大型機械による作業工程や県産材の特徴などを学んだ。建築現場では軸組を見て実際に利用される様子を見学した。
	ａｂｏｕｔ（～について）－　情報収集・分析など（知識、思考）	

<table>
<tr><td rowspan="3">1</td><td colspan="2">3・4年　森の見方を変えると・・・（@まるやま）</td></tr>
<tr><td>・つま物になる樹種、収穫時期を知る
・規格や価格を知る
・収穫と清算
・持続可能な採集
 </td><td>葉っぱビジネスに取り組む方にアテ、モミジ、カキ、クマイザサなどの商品価値について話を聞き、実際に採集、調整をして検品してもらう。作業の大変さを学ぶ。少額でも自分たちで作ったお金の尊さを感じた。</td></tr>
<tr><td colspan="2">ｉｎ（～の中で）－　体験、観察、製作など（関心・意欲、知識・技能）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">6</td><td colspan="2">1・2・3・4・5・6年　七尾・金沢でアテの活用を見る遠足（@加賀屋、兼六園、金沢城）</td></tr>
<tr><td>・料理長からアテ葉を使った盛付実演
・兼六園の松の支柱（アテの木）見学
・雪吊り作業見学・庭師の話
・アテ材で建築された五十間長屋見学</td><td>普段子供達が目にしているアテの木や葉っぱなどが、加賀屋や兼六園や金沢城といった離れた場所で活用されている所を実際に見て、関わる人の話を聞く。
 </td></tr>
<tr><td colspan="2">ｉｎ（～の中で）－　体験、観察、製作など（関心・意欲、知識・技能）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">3</td><td colspan="2">1・2・3・4・5・6年　ニホンイタチの剥製（@農林総合事務所、三井小学校）</td></tr>
<tr><td>・里山の生き物、獣害と対処について知る
・命の大切さを知る（絵本読み聞かせ）
・森の生き物の食物連鎖について
・剥製の製作工程について学ぶ
 </td><td>高学年は農林事務所を訪問し里山の生き物について学び獣害や出会った時の対処などを聞く。低学年は食物連鎖や命の大切さについて絵本の読み聞かせ後イタチの絵を描いた。全校で卒業生の剥製家が製作した日本イタチの剥製を見ながらスカイプで製作工程を学ぶ。</td></tr>
<tr><td colspan="2">ａｂｏｕｔ（～について）－　情報収集・分析、情報交換、討論など（知識・思考・判断）</td></tr>
</table>

（４）プログラムでの連携内容

（教育機関、地域、団体等での、①連携・協働先、②役割分担、③具体的な連携・協働の内容）

1.三井小学校　活動の実施、事前事後授業、全般的な安全管理
2.まるやま組　事前準備と当日の運営指導、現場プログラムにおける安全管理、教材製作、講師陣の調整、活動記録写真集作成、ESD普及啓発
3.講師陣　谷中氏（栗農家）、山浦氏（葉っぱビジネス）、鳳至木材、奥能登森林組合、川昭工務店、奥能登農林総合事務所、剥製家（製作、工程をスカイプ授業）、兼六園（庭園における三井地区のアテの木の使用例ツアー）、造園家（雪吊りの工程を解説）、加賀屋（料理長によるツマもの盛付実演）、金沢大学里山里海プロジェクト（生き物調査）、国連大学いしかわオペレーティングユニット（会議や書籍などでESD取り組みの意義を国際発信）、日本自然保護協会（モニ1000里地調査）

（５）活動の分析（学習指導要領との関連または森林環境教育の視点） 上位３項目	
教科・項目、視点	学習内容
自然的特性 生活：身近な自然の観察 理科：昆虫と生物、植物の成長、生物と環境 総合的な学習：横断的な課題の学習	まるやまの周辺で見られる植物や昆虫などを生き物マイスターや虫博士の児童の解説や、遊びなどから学び合う。栗園では葉や花など生態的な様子を絵を描きクイズで自発的に気付いた。栽培植物は挿し木や鳥媒による突然変異で増やすことも学んだ。ニホンイタチの剥製をめぐる授業では命の大切さや生態、獣害問題などについて絵本の読み聞かせ、農林事務所訪問や卒業生によるスカイプ授業など多様なスタイルで学びを深めた。
多面的機能 社会：国土の自然・環境、国土保全、地域の生活 総合的な学習：横断的、総合的な課題の学習	昨年学んだ档（能登ヒバ）の造林や間伐、間伐材の活用に引き続き、材木センターで競り、製材、建設現場で住宅になるところまでのつながりを見聞し、地域の伝統的な林業を理解できた。また手入れ不足の森林の新たな活用法として葉っぱビジネスで価値を生み出す様子を学んだ。収穫から納品、旅館での盛付けまでを体験して森林と生活との関わりについて理解を深めた。
歴史・文化 社会：歴史上の事象、文化財 特別学習：遠足・鑑賞、集団活動	石川県の名庭園兼六園は美しい樹木が有名だがその多くは古木で自立ができない。 三井地区の档は豪雪地帯でゆっくり育つため堅く目の詰まった材種で細長く育ったものは古くから名木の支柱として求められてきた。 遠足では雪吊り、五十間長屋など金沢の歴史や文化などを支えている集落の档の木を訪ね学芸員の方からの解説を聞き、能登の森林と加賀の文化の関わりへの理解を深めた。

（６）活動の分析（資質・能力の視点）	
項目	ＥＳＤの要素（７つの能力・態度）の視点で見つめ直して、 もっとも重視する視点の内容を記載してください。
①生きて働く「知識・技能」の習得	１ 批判的に考える力 生き物調査の結果と半自給的な集落の暮らしの聞き取りをまとめた暦「まるやま本草」を使って活動する。身の回りの自然や伝統的な知恵が役に立つことを実感し、大切だと自分で理解できる。田舎だから何もない、森は金にならない、早く都会に出た方が良いなどの常識を取り払い、地域の良さや抱える課題を子どもを通じて周囲の大人も学び合う場づくりが土地固有の「知識・技能」の習得につながる。
②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	３ 多面的、総合的に考える力 葉っぱビジネスの活動で、つま物となる葉の樹種、大きさなどを教えてもらい収穫した。情報をもとに取りやすい場所を探す、商品価値のある葉を判断する、ちょうど良い大きさに切りそろえる。効率よく利益を生むには何を取れば良いか。取り尽くすと絶えてしまうから守ろう等と様々な考察があった。最終的に買取という本物の対価を得ることが子供達を真剣にさせ「思考力・判断力・表現力」などの育成につながった。
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養	６ つながりを尊重する態度 自然界の中の循環や人と自然のつながりについて、本やネットの情報として頭で学ぶのでなく、地域の人と人のつながりを生かして、地域の言葉で伝承していくことで子供達もつながりを実感できる。イタチの剥製をめぐる授業ではスカイプを活用し能登と東京という空間を超えて、卒業生という世代間もつなげることでイタチという身近ではあるがその実態をあまり知らない森の生き物への「学びに向かう力」の涵養に役立った。

（７）実施後、参加者の変化

(児童)
・地域の木材が漆器の素材や地元の建築に利用されていることは知識として持っていたが、山の葉っぱが日本一の旅館の「おもてなし」に役立っていることや、アテの木が金沢城の復元に用いられ、兼六園の雪吊にも欠かせないことなどを知り、ふるさとを誇りに思う気持ちを今まで以上に持つことができた。また、里山の自然に直接触れたり、手入れされた林とそうでない林の違いを見たりすることを通して、里山の保全の大切さを実感した。
・三井の児童は自然に触れる機会が多く、生物の名前をよく知っていると思うが、本事業プログラムによる授業で、多角的に、また科学的に再認識することができたと思う。
・生と死、自然界の仕組みについて、絵本や標本を通じて知り、好奇心や学習意欲を高めることができた。また、先輩の仕事に興味をもち、将来の自分の姿を重ね合わせていた。
・一つ一つの体験につながりがあり、何のために活動するか目的を持って活動できていた。特に、葉っぱビジネスでは実際に自分たちの採った葉っぱの売り上げをいただき、三井の自然を生かした新たなビジネスの姿に関心を持つことができた。

(先生)
・「子どもたちにとって座学では得られない発見や感動が得られる貴重な学習機会である」という認識を新たにすると同時に、「教師自らが地域の自然や暮らしについての理解を深める場でもある」と感じている。
・地域の自然について案内していただきながら体験的に学ぶことで、子どもたちの住む土地の恵みや価値について自信を持って語ることができるようになった。
・講師の準備してくださった絵本や野生生物のお話は、大変興味深く参考になるものとなった。児童に生物に関する本を探して紹介するなど様々な本により広がりをもたせることができた。
・普段あまり気にも留めない自然について深く考えることで、身近に感じられるようになった。

（地域）講師を務めた地域の人々は昔ながらの知恵に光を当て、子供達に伝える機会があってとても有意義だった。学校では教えられないことを地域で伝えていくことは重要だと再確認した。写真集という形で成果がまとめられ残るので教材として繰り返し活用していってほしい。などの声があった。

（行政・NGO）県は事業を通じて支援を継続、大学はそれぞれの得意分野で調査やまとめ、発表の場の提供などをしてくれている。教育委員会の中での仕組み作りは難しい。

土地に根ざした学びの場・まるやま組 X 石川県輪島市立三井小学校
森林環境教育プログラム

よぼし子の森　～つながり、かかわり、ひろがる～

NOTO MII ELEMENTARY SCHOOL X TEAM MARUYAMA
Education for Sustainable Developement
in Noto, a site of Globally Important Agricultural Heritage Systems

よぼし子の森

2016 - 2018
yoboshigo no mori

よぼし子の森。

ゴールは三井のこども達のココロとカラダの中に森がそだつこと。

能登三井はかつて林業で栄えた村。アテと呼ばれる能登ヒバや杉を育て建材や輪島塗の木地を作り、雑木は薪をつくり炭焼きをする暮らしがありました。

小学校の高台から見渡せば沢山の森が見えます。そこには今でも間伐をする人、薪を作る人、しいたけのホダ木を仕込む人、田んぼの脇の陰なぎをする人、木の皮で和紙を漉く人、チップ工場に間伐材を持って行く人などがいます。金沢の兼六園の桜の支柱に三井の大きなアテの木が使われてもいます。

むかし、烏帽子親、烏帽子子というしきたりがありました。山持ちの親方が若者が成人するまで仕事をあたえ経済的な援助とともに人材育成をする仮親制度だったといいます。

今、地域の様々な人がつながって、三井のこども達に森のことや知恵を受け渡す場があったらいいなとおもいます。グローバルな社会で活躍する次世代こそ土地に根ざした学びが必要です。実の親でなくても地域のみんなで地域の子どもを育てる。

● まるやま組の概要

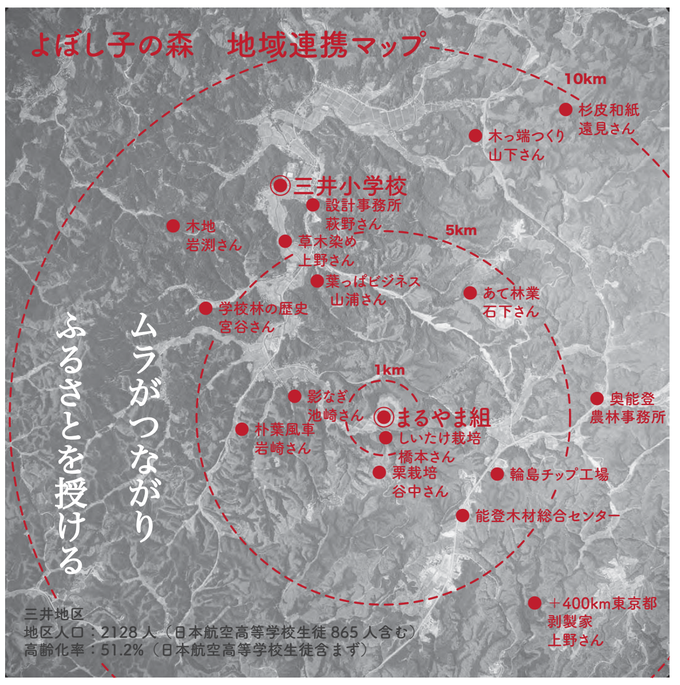
活動地域：輪島市三井町、健康の森等
会員数：50 名
事業内容：（1）里山保全及び農業　（2）環境教育事業　（3）自然生態調査　（4）教材開発事業　（5）ESD 普及啓発

●地域小学校の森林環境教育活動支援「輪島市立三井小学校」

対象：輪島市立三井小学校　1.2.3.4.5.6 年生　計 22 名（輪島市三井町興徳寺 10-29）
場所：小学校校区、まるやま地区
思い：まるやま組　環境教育支援を通じ、学校と地域双方が活力を得て、新たな里山のあり方につながる学びの場の構築。
　　三井小学校　自然を守ることや生かすことの重要性について知り、今後の自然や地域への関わり方や自分の生き方について考えることができるようにする。
沿革：2011 年度　まるやま地区で環境教育プログラム開始
　　2012 年度　三井小学校ユネスコスクール認定
　　2013 年度　「能登の里山里海」世界農業遺産認定 FAO ハイレベルエクスカーション視察受け入れ
　　2016 年度　「よぼし子の森」石川県こども森の恵み推進事業採択、ふれあい空間いしかわ TV 収録

●プログラム

輪島市三井町は能登半島の里山にある档（能登ヒバ）の林業で栄えた集落である。三井小学校（全校児童 22 名）の周辺には林業、漆器業、紙漉など森に関わる達人が多くいる。また森林組合や木の葉をつま物に使う老舗旅館、生態学者のいる大学などもある。本プログラムでは地域の多様な人材を先生として、森をキーワードに多面的なアプローチで体験活動を行う。実施回数は 6 回 / 年、2 時間 / 回＋遠足。学年ごとのテーマは、1･2 年 : 自然と親しむ、3･4 年 : 森の生き物調べ、5・6 年 : 森の経済価値、全学年 : 三井の森と金沢の街の関わり（遠足）など。小規模校のメリット活かしてスクールバスでフレキシブルに移動する。活動後は概要を写真集としてまとめ、学校・地域用に保存・活用する。



山村に住んでいても普段なかなか足を踏み入れることのない森に入り、間伐や枝打ちなどの日の手の入った明るい森と暗い森の植物や生き物の違いを生態学者と一緒に観察した。下草にクマイザサが多い、つる植物が多いなど子供達から気づきがあった。光量計を使ってどれくらい違いがあるのかなど客観的にデータを取ることを学んだ。

森にすむカエルの多様性を観察した。田んぼの水や森のなかとライフステージに合わせて関わり移動するカエルの生態に人と自然の関わりを見ることができた。また森の動物ニホンイタチの死体を剥製にする様子を東京のアトリエとつないでスカイプで授業を行った。身近な動物を通して食物連鎖や命の大切さなどを学んだ。剥製製作は子供達の先輩の三井小学校の卒業生でもあったため、世代を超えたつながりや職業について考えるきっかけにもなった。

手入れ不足の山の杉の木の間伐に立会い、その後計測や年輪を数える、枝払いなどを体験した。みんなで運搬してチップ工場で買取をしてもらい木の経済価値や労働について学んだ。
また、コロ担ぎという昔の木の搬出方法や専用の縄ないなどについて実演してもらった。木こりがヘギ板に味噌を塗って焼いて食べたという木っ端味噌なども試食した。

環境

集落では薪ストーブを使う家がまだあり、毎年薪作りをしている。薪を割って乾燥する理由や樹種による固さの違い、斧など道具を安全に使うことができた。また薪ストーブの暖かさも体感し焼き芋など冬の味覚も楽しんだ。

エネルギー

よぼし子の森教材　～アイデンティティを育み、生きる力を引き出すために～

1. まるやま本草

2. ある木札

3. ポケット図鑑

1. まるやま本草｜まるやま組で取り組んできた植物のモニタリングで明らかになった花暦をタイムラインに、集落の暮らしの知恵を歳時記のように並べた土地に根ざした暮らしの暦。見開きで一ヶ月でおおよそ見られる植物やしきたり、食や住まいのことを土地の言葉を使って解説されている。**2. ある木札**｜間伐材の板でできた出席カード。毎回季節の動植物のスタンプが押される。首に下げるとヒノキチオールの香りがする。**3. ポケット図鑑**｜まるやまで見られる水生昆虫だけが出ている図鑑。全児童数用意されているので携帯して歩くことができる。

工芸

杉の木の皮をドロドロに煮込んで木枠ですくいあげ自然の色と風合いを活かした杉皮和紙を漉く。廃材を燃料に乾燥している。

住

集落の杉やアテの木が木材センターに運ばれ大きさ別に並べられ競りにかけられる様子を見学した。その後製材所で角材に仕上げられ、住宅の柱や梁に使われている様子を体感した。県木アテの特徴を五感を通じて理解できた。

30年以上三井のアテの葉を料理のツマモノとして使っている加賀屋の料理長。お客様に美味しく、美しく満足してもらうために三井の葉っぱで盛付け。

アテ葉を財布に入れると金運アップと言うお客様も。

おもてなし

生業

アテやクズ、カキ、モミジなど季節の彩りを添えるものとして旅館の調理場へ出荷する葉っぱビジネスを体験。事前準備として葉の種類、調整、価格などを教えていただく。最初は興味本位で作業をしていたが丁寧に作らないと買取にならないことから真剣味が増した。遠足では高級料亭へ納品し、どのようなところで集落の葉っぱが使われているのかつながりを実感した。

文化

兼六園の庭木の支柱や五十間長屋など三井のあての木が使われているところを遠足で巡る。歴史への興味、地元への愛着や誇りを感じ取っていた。

衣

柿渋と藍の生葉で里山の生き物を描いた布でモンペを縫ってもらい、低学年の野外活動の時に作業着として着用した。

体長16cm。ニホンイタチの♀です。平均寿命は1.4年です。

命

知恵

刈り払った枝は畑でナスの支柱に使う。山で見つけたササユリは笹と束ねると痛まない、朴葉の先端を抜くと風車になるなど、自然を活かしながら守る賢い知恵をばあちゃんたちに聞いた。

よぼし子の森　広域連携マップ

- 輪島市内 鳳至木材
- 三井小学校
- まるやま組
- 七尾市和倉町 和倉温泉加賀屋

ムラとマチがめぐりあい 世界がひろがる

- 金沢市 兼六園
- 石川県庁 里山振興室
- 国連大学 いしかわ・かなざわ オペレーティング・ユニット

- 珠洲市小泊 金沢大学能登里山里海 マイスター育成プログラム

まるやま組は金沢大学と連携して生態調査協力、環境教育への専門家アドバイスや講師派遣などを受けている。

間伐材が集落のチップ工場で粉砕される様子を見学。児童の家なそと族も働く身近もこの工場だが誰もの先を見たことがない。

バスで高岡の製紙工場へ遠足。大型高速機械で集落の木が紙になり様々に使われ世界へ流通する様子を見学。

- 富山県高岡市 中越パルプ工業株式会社

世界

三井産の樹齢100年以上、長さ20mのアテの木を100km離れた兼六園へ

通常授業時間に先生方の指導で学習のまとめをポスターにして後日お礼状として送った。

県民1人当たり500円の森林環境税を「子ども森の恵み推進事業」に活用する仕組みがある。

世代を超えた学びは重要！

普及啓発

まるやま組は国連大学や日本自然保護協会などと連携して取り組みを国際会議や刊行物などで広く社会や世界に向けて発信している。

日本自然保護協会

UNITED NATIONS UNIVERSITY
UNU-IAS
Institute for the Advanced Study of Sustainability

畏敬

4. 活動記録写真集

5. まるやまの白地図帳

6. 落ち葉の音

7. 里山劇場

4. 活動記録写真集｜「よぼし子の森」で活動した一年間をまとめた写真集。全児童と講師に配布する。また学校、地域用に教科書として活用できるように保存する。**5. まるやまの白地図帳**｜まるやまの様子を五感で感じて描き込む記録シート。一人一人違うものができ、自分の気づきになる。**6. 落ち葉の音**｜落ち葉の虫食い穴を紙巻オルゴールの楽譜に見立てた自然の神秘を楽しむツール。**7. 里山劇場**｜低学年向け環境教育劇。野路の採り方やキノコを食べる山ナメクジなど里山の生き物のオリジナルパペット。

事例報告　Ｈ２９－８

団体名：　箕面市立止々呂美小学校・NPO法人とどろみの森クラブ　（大阪府）

プログラム名：　里山体験学習

（１）プログラムの目標	・地域の人とのつながりを楽しむ。 ・間伐体験や道普請を通して、地域の自然に親しみをもつ。 ・体験学習を通して、里山について理解を深め、里山保全に取り組もうとする態度を育てる ・学んだことを通して、とどろみの環境について考え、自ら課題意識をもち、解決に取り組もうとする。
（２）プログラムの概要	６年生の取組事例 ・里山についての講義 ・散策道の道普請 ・散策道付近の間伐 ・これまでの学習や体験学習を通して、とどろみの環境について学んだことや考えたことを、他学年などに発信していく。

（３）プログラムの展開

時間数	プログラムタイトル 活動内容	指導・支援の方法、ポイント等（教材等） ｉｎ、ａｂｏｕｔ、ｆｏｒ　の視点で活動内容を区分
1	里山について知る なぜ間伐をするのかを、とどろみの森クラブの方からお話を聞く。 about　里山の話を聞く（情報収集）	とどろみの森クラブの方から話してもらう。
3	間伐体験 散策道付近の間伐をする。 in　伐採体験	とどろみの森クラブの方に道具の扱い方、間伐の方法を指導してもらう。 とどろみの森クラブの方の指導のもと、木を選定し、伐採していく。
4	道普請 道普請をする。 in　道普請	森クラブの方から道具の扱い方を指導してもらい、作業する。
4	とどろみのすてきを伝えよう 学んだことを他学年に発信する。 for　実践　発表	これまでの体験活動を通して、とどろみの環境の良さを改めて考え、自分たちにできることを実践したり（ビオトープ再建）、発信したり（他学年に発信）していく。

（４）プログラムでの連携内容
（教育機関、地域、団体等での、①連携・協働先、②役割分担、③具体的な連携・協働の内容）

①とどろみの森クラブ
②里山についての講義、体験活動の準備と実施、実施に伴うスタッフ活動等
③事前の打ち合わせ２回（日程と内容決め。直前の打合せ）
　とどろみの森クラブ小屋で集合し、里山についての講義をしてもらう。
　里山での活動実施（道具や活動のための準備・道具の使い方のレクチャー、グループの見守り等）

（５）活動の分析（学習指導要領との関連または森林環境教育の視点）　上位３項目

教科・項目、視点	学習内容
総合的な学習 ５、管理・維持	里山保全のために、間伐や道普請をする。 林道を管理・整備することで、里山が利用しやすくなることを知る。
総合的な学習 ３、多面的な機能	里山の機能について聞く。 間伐の意味を知り、伐採体験の向かおうとする気持ちを高める。
総合的な学習 ２、自然的特性	動物（鹿や鳥）との関わりを知り、鹿害を減らし、大鷹が住む森にしようとする取り組みについての理解を深める。

（６）活動の分析（資質・能力の視点）

項目	ＥＳＤの要素（７つの能力・態度）の視点で見つめ直して、 もっとも重視する視点の内容を記載してください。
①生きて働く「知識・技能」の習得	○里山についての講義 ５年生の社会でも林業の単元があり、山の機能や、間伐の意義は学習済みである。 ６年生でさらに話を聞くことで、知識が広がり、体験を通してさらに理解を深めることができる。
②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	○他学年への発信 とどろみの環境を考えるというテーマで、自分たちがしたいこと、やりたいことを出し合い、「他学年などにとどろみの良いところを発信したい。」という思いが出てきた。伝える内容や方法を考え、発表内容でグループ分けした。国語の授業で学んだ発表方法などをいかしてプレゼンテーションソフト等を使って発表することで、伝える力を育む。
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養	○体験学習 体験学習を通して、教室で学習したことをさらに深められ、興味関心を高められる。 ○発信 学んだこと、考えたことを形にしていこうとする力を育てる。

（７）実施後、参加者の変化

・道普請はしんどかった。こんな作業をしていることを初めて知った。
・間伐をすることで、森が育つことが分かった。
・道普請をすることで、歩く道がきれいになって歩きやすくなった。
・鹿に食べられないようにネットをはっていることがわかった。
・止々呂美には自然がたくさんあって、よいところだと思った。
・他の学年に伝えられてよかった。

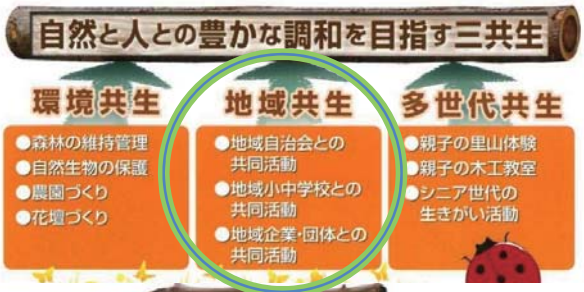
とどろみの森学園は、箕面森町という新興住宅地にあり、府内の公立学校で初の施設一体型の小中一貫校です。今年で開校１０年目を迎えました。

山に囲まれた地域の特色を生かし、開校当初から地域理解学習を進めています。地元のＮＰＯ法人とどろみの森クラブと連携して、里山散策やクラフト、里山学習や里山保全などの活動を様々な学年で展開しています。

学校の取り組み

・開校当初から地域理解学習を柱とした学習
・生活科や総合的な学習の時間に地域を学ぶ
～地域の特産物　ゆず・しいたけ・びわ・炭～
～地域の特色　近くに里山・余野川など　～

特定非営利活動法人
とどろみの森クラブ



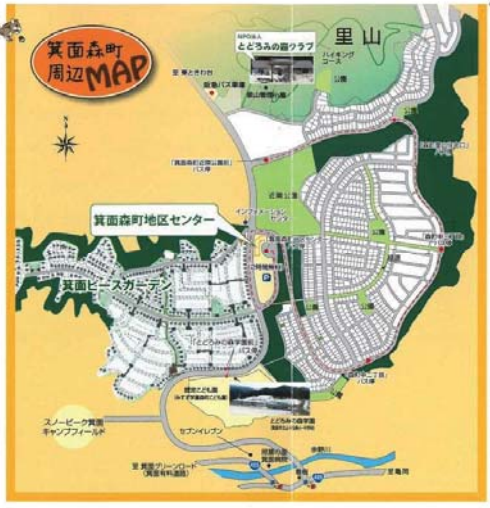
活動の目的

私たちは、特定非営利活動法人「とどろみの森クラブ」を平成 19 年 2 月に設立し、大阪府箕面市森町に拠点を置いて活動しています。

この地域には、昔からの深山を抱えた里山が残されていて、希少な動植物が多く生息しています。箕面森町は、三共生「自然環境・地域・多世代」をコンセプトとして開発されていて、この趣旨に賛同する近隣地域の人達と共同して自然と人が豊かに共生する環境づくりを目指しています。

当クラブの特色は、様々な経験と知識を持つ有志が結集していることで、多様な能力を共有してユニークな組織を構成しています。

この組織を活用して、森林整備、地域の人たちとの農業・園芸・木工などの活動を通じて三共生に取り組むとともに、社会に役立つ情報を発信しています。



活動案内

グループ活動について

クラブ共通の活動支援を行いながら、グループに分かれて独自の活動を行っています

森林グループ	箕面森町周辺は、奥山の風情が残されています。間伐、林床整備、道普請など里山整備、炭、薪、椎茸の生産をし、里山としての創生活動を行っています。
農業グループ	里山の環境を生かした土づくり、雨水の活用を行い、たくさんの大地の恵みをみんなで分かち合える活動を行っています。
木工グループ	里山の森林整備を行った時の間伐材を利用して、クラフト作品を作っています。幼児から大人までのクラフト体験教室を開き自然に親しんでいます。
園芸グループ	里山の公園・花壇づくり、植樹などを通じて木々・花を育てる喜びや楽しみを地域の人達と分かち合う活動やリース作り等の園芸教室を定期的に開催しています。

とどろみの森クラブと連携して、里山で自然体験

活動団体一覧表（中学校・高等学校編）

番号	活動団体等	主な活動場所等	活動の分析から ESDの要素（生きる力）の視点で重視する項目							掲載ページ
			能力				態度			
			1 批判的に考える力	2 未来像を予測して計画をたてる力	3 多面的、総合的に考える力	4 コミュニケーションを行う力	5 他者と協力する態度	6 つながりを尊重する態度	7 進んで参加する態度	
H28 2	一般社団法人　比良里山クラブ 大津市立志賀中学校（滋賀県）	滋賀県　大津市立志賀中学校校区	○	○	○					128
H27 5	学校法人　YMCA学院高等学校（大阪府）	大阪府下の森林ボランティア団体活動地、YMCA学院高等学校			○			○	○	132

事例報告　Ｈ２８－２

団体名：　　一般社団法人　比良里山クラブ・大津市立志賀中学校（滋賀県）

プログラム名：山・里・湖，それぞれだけど，ひとつ。自然とともにある暮らしを感じ，つながってみよう！	
（１）プログラムの目標	・地域の里地での自然体験を通して，人と自然の共生について考える。 ・豊かな自然と共に育まれてきた豊かな生活について学び，今後の暮らし方や生活エネルギーについて考え，環境保全を実践する態度を養う。 ・エネルギー教育モデル校の実践として，3年間のプログラムの一環として実施する。エネルギー教育，ESD教育の導入としての役割をもたせる。 ・総合的な学習の時間をつかった学習として，課題解決的な学習をさせる。 ・環境学習の中核となる学習として，関連する教科との事前・事後の連携を図る。
（２）プログラムの概要	・事前学習　（年度によって内容は変更あり） ・学校に集合した後，校区内の6か所に分かれて移動する。 学校より徒歩で移動　1グループ 電車で移動　5グループ　電車で移動するグループは活動場所の最寄り駅で比良里山クラブの皆さんと合流 ・それぞれのグループで学習 ・お互いのグループの学習内容を交流する。（年度によって方法に変更あり） ・学級の各活動班で活動した内容・学んだことを新聞にまとめる。教室前に掲示した後，地域の公民館などに掲示。 ・エネルギーについての学習で，エネルギーと社会・環境のかかわりについて考えるための題材とする。

（３）プログラムの展開

時間数	プログラムタイトル	
	活動内容	指導・支援の方法、ポイント等（教材等）
	ｉｎ（～の中で）、ａｂｏｕｔ（～について）、ｆｏｒ（～のために）　の視点で活動内容を区分	
3	事前学習	
	学習の目的・内容・計画の確認 事前学習　講演 活動の準備（グループ分け・役割分担） 事前指導	・学習のねらいを理解させる。 ・学習に興味を持たせ，地域を意識した活動であることを理解させる。 ・校外での学習に向けて，留意する点などを確認する。 ・各学級に全てのグループがあるようにする。
	ａｂｏｕｔ－情報収集	
6	環境学習当日	
	6グループに分かれて活動場所へ移動 体験学習　見学・観察・講話・実技 学校へ帰って，活動のまとめ 写真説明 左上　自然との共存、水田の現状 　　エネルギーの変遷 左下　内湖の現状、湖岸の現状	・グループごとに行動する。 ・学んだことや感じたことなどをしっかり記録させる。 ・グループごとに学んだことを確認し，これからの地域と環境のかかわりについての課題を整理する。
	ｉｎ－体験、観察	

4	学習の共有とまとめ・発表	
	グループごとの学習内容の交流 グループごとにまとめの新聞制作 学級での発表会	・学級で全てのグループの学習内容を共有する。 ・まとめの新聞などを制作する。
	ａｂｏｕｔ－情報交換　・ｆｏｒ－提案	
	エネルギー教育との連携	
	理科 技術・家庭科技術分野 総合的な学習の時間	・森林とエネルギー ・地域の暮らしとエネルギー ・暮らしの中で使われてきたテクノロジー
	ｉｎ－観察、製作　・ａｂｏｕｔ－情報収集・分析、情報交換、討論　・ｆｏｒ－提案、実践	

（４）プログラムでの連携内容

（教育機関、地域、団体等での、①連携・協働先、②役割分担、③具体的な連携・協働の内容）

①比良里山クラブ
②当日，比良里山クラブの皆さんに講師として各活動場所での指導をいただき，学校教員は事前事後学習を指導するとともに当日の引率指導を行う。事前に担当者を中心に協議を行い，プログラムの詳細について打ち合わせを行う。
③地域に関係の深い方からお話を伺うことで，地域の生活と環境のかかわりについて考えさせる。

エネルギー教育モデル校の活動の一環として，資源エネルギー庁から活動に伴う援助をいただいている。

（５）活動の分析（学習指導要領との関連または森林環境教育の視点）　上位３項目

教科・項目、視点		学習内容
多面的機能	エネルギーとしての森林 生物との共存の場 里山・湖と森林のかかわり	・薪割り体験などを通して，エネルギーと暮らしの変遷とエネルギー源としての森林について考える。 ・森の生物との共存について，シシ垣の補修などを通して考える。 ・湖，内湖，里山と森とのかかわりについて知る。
歴史・文化	暮らしの中での森の利用 古くからの暮らしの中でのかかわり	・森からの恵みを生かした生活について知る。 ・古くからの治水の知恵や，水と森とのかかわりを知る。
技術・家庭科技術分野	資源としての森林 木材・林業と生活のかかわり 世界の森林資源 再生可能エネルギー	・林業の現状を知り，木材資源の利用について考える。 ・木材と生活・文化とのかかわりを知る。 ・森林バイオマスや木材の有効利用技術について知り，今後の技術と社会・環境のかかわりについて考える。

（６）活動の分析（資質・能力の視点）

項目	ＥＳＤの要素（７つの能力・態度）の視点から、もっとも重視する視点の内容を記載
①生きて働く「知識・技能」の習得	・多面的，総合的に考える力 「山・里・湖，それぞれだけど，ひとつ。」のテーマに象徴されるように，環境・生活・社会のかかわりを総合的にとらえ，多面的な視点をもって分析する能力を育成する。 滋賀県では水環境にかかわる環境学習が多いが，湖にとらわれず，生活環境を広くとらえるとともに，歴史的な経緯を知ることによって時間軸についても総合的に考える機会としたい。
②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	・状況を分析し，自分が取るべき適切な言動について，自分で考え判断する態度と能力を育成する。特にエネルギー教育の観点からも，偏った報道や極端な意見を鵜呑みにして，思考を停止してしまいがちな社会のなかで，正しい知識をもとにした主体的な判断と，その表現・発信について学ばせていきたい。
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養	・環境にかかわる諸問題について，将来的に社会の意思決定にかかわるようになった時に，中学校で学んだ態度や考え方の礎は確実に役に立つ。また，環境や技術にかかわる問題が，時間とともに変わっていくことを予見し，学び続け，考え続けることの重要性についても理解させたい。

（７）実施後、参加者の変化

・身近な地域での活動であるが，生徒にとって初めて行く場所も多く，自分たちが生活する地域を深く認識することができた。
・自然環境や生活の変異を意識することができ，現在の環境が変化なくずっとあり続けるものではないという事を強く感じた生徒が多かった。
・現代社会のエネルギーについて考える学習とリンクをさせることで，地域で学んだことが地球規模での大きな問題につながっていることを認識することができた。

大津市立志賀中学校

第一学年環境学習　人と自然の共生について考える

山・里・湖，それぞれだけど，ひとつ。
自然とともにある暮らしを感じ，つながってみよう！

環境学習の位置づけ

総合学習

総合学習の時間確保が難しい中で
課題解決型学習を仕組む貴重な機会

教科などで学んだことを総合的に
生かす学習

環境教育

地域の特性を生かした学習
「自然」だけでなく「暮らし」も

実践的・体験的な学習

一年生
環境学習

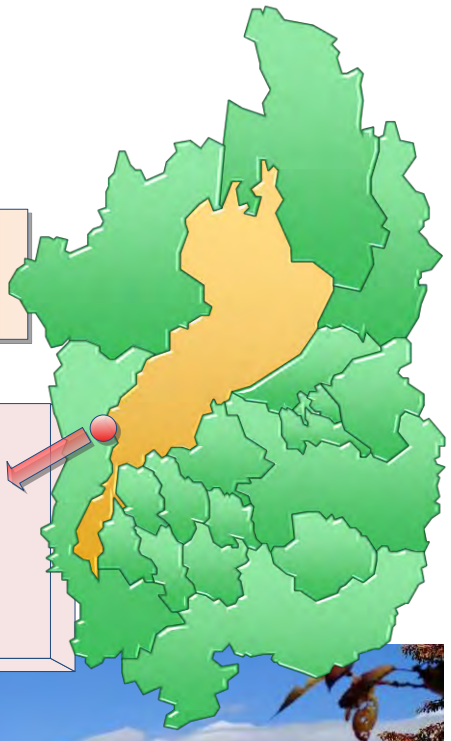
エネルギー教育

エネルギーと社会・環境のかかわり
について学び、考える
答えがないことが答え

技術・家庭科技術分野

木材資源について考える
エネルギーとしての森林

さまざまな意味・価値をもつ学習



大津市最北端
眼下に琵琶湖を見下ろし、
裏山はスキー場。
校区内にJR駅が7つあり、
ほとんどの生徒は電車で通学。
そんな学校です。

比良里山クラブのみなさんと　校区内6か所に分かれての学習

Aポイント

森林エリアでの自然と人間の共存について
体験を通して考える

野生動物を知る
（防護柵）シシ垣の修理

Dポイント

残したい農村の自然と現状
水田の現状・自然と人との共生

地元の農産業・河川の状態を知る
石畳や石垣の製作

Bポイント

エネルギーの変遷を知り、自然と共にある
持続可能な暮らしに目を向ける

エネルギー源としての森林
薪割体験

Eポイント

山から湖に流れる水を通じて
内湖の役割や現状を知る

内湖の今昔・内湖と琵琶湖の成り立ちを知る
葦刈り

Cポイント

里山・村・湖ってどんなところ？
それぞれの暮らしの知恵を学ぶ

昔の農具と現代の農具
自然と共存するための知恵

Eポイント

近江舞子の湖岸の歴史
現状と課題

舞子浜の今後について考える
舞子浜フィールドワーク

資源エネルギー庁指定　エネルギー教育モデル校（平成26年度～28年度）

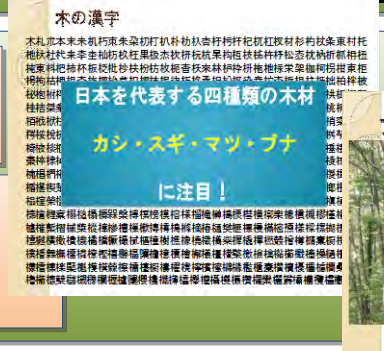
豊かな自然と豊かな生活のかかわりについて、テクノロジーから考えるエネルギー環境教育

自然環境を保全・保護するための知識・判断・行動にかかわる環境教育についての視野を広げ、人間が生活する環境全体に対する視野を持たせる。
自然の中で人々が培ってきたさまざまな生活技術に目を向けることを足掛かりにして、現代社会でのエネルギーの使い方について考察させ，さまざまなエネルギー関連技術が、環境を守ることに貢献していることを理解させる。

技術・家庭科技術分野　「材料と加工に関する技術」「生物育成に関する技術」「エネルギー変換に関する技術」

森林資源・木材資源・林業にかかわる学習
栽培技術・食と農、生活のかかわりに関する学習
エネルギー技術と社会・環境のかかわりに関する学習

木の漢字　世界の木材資源　「ブナ」についての学習
植物工場　品種改良と遺伝子組み換え　バイオエタノール
滋賀のエネルギー　放射線　エネルギーと情報



A グループ　志賀中学一年環境学習

スタート前のアイスブレイク

石林へ出発する生徒達

シカの頭蓋骨を使った学習

シカが侵入した箇所の観察をした後、班に分かれて修繕作業

B グループ

エネルギーについての学習風景

薪割りを体験する生徒達

動滑車（チルホール）
を使った綱引。
１人対全員での対戦。

午後は体育館で、まとめ学習。
自分の体験を発表し合う感想や発見を全員でシェア 。

事例報告　Ｈ２７－５

団体名：　　学校法人　ＹＭＣＡ学院高等学校　（大阪府）

プログラム名：　森林体験（ＹＭＣＡ学院高等学校）

（１）プログラムの目標	①多様な森林の機能を理解する ②森林を守ることについて、きちんと考える（日本と世界の森林の違い） ③実際に森林に入り、間伐活動を体験する ④日頃、森林で活動しているボランティアや仕事をされている方から話を聞き、学ぶ
（２）プログラムの概要	５０分×８コマ（４コマ 教室座学、約４時間 野外実習） 座学では、森林の機能や日本と世界の森林の違い、日本の戦後の森林の歴史を学び、野外実習は間伐体験を中心に行う。

（３）プログラムの展開

時間数	プログラムタイトル / 活動内容	指導・支援の方法、ポイント等（教材等）
2 (1日目)	森林について知ろう 森林の特徴や機能、日本と世界の森林の違いと状況を座学で学ぶ	特に森林が持つ多面的な機能については、時間をかけて、生徒たちに考えさせて、森林が自分たちの生活とは切り離されたものではなく、気づいていなかったかもしれないが、森林からたくさんの恩恵を今も受けていることを実感させる。
4 (2日目)	野外実習（間伐体験） 間伐など森林の管理作業を体験する。市民団体の方に受け入れてもらい、お話や交流も行う。 	座学で学んだことを、実際に体験し、実感する。また、市民団体の方に活動のお話を聞いたり、森を紹介してもらったり、木の特徴を説明してもらう。 森林の問題を解決したいと思い活動、仕事をされている人の話を聞くことで、そういう仕事の選び方や時間、お金の使い方があることに気づいてもらう。
2 (3日目)	日本の森林の歴史や仕事を知ろう 戦後の日本の森林の歴史を知る。 ゲストスピーカーとして、箕面森林ふれあい推進センターの方の話を聞く。	1日目で今の森林の状況を理解したが、どうしてそこに至ったか、今まで日本は森林をどんな使い方をしていたかの変遷を知る。 その上で、国有林の管理をしている箕面森林ふれあい推進センターはどんな仕事をし、どんな人が働いているのかを知る。センターの方には仕事内容だけでなく、どうしてこの仕事を選んだのか、働いていてどう感じているかなどを話してもらう。

（４）プログラムでの連携内容（①学校、②地域）

①学校の授業の一環として行っている。

②大阪府下で活動するNPO法人森林ボランティア竹取、NPO法人里山倶楽部の方に実習の受入、活動の紹介や活動への想い、困っていることなどのお話してもらっている。また、箕面森林ふれあい推進センターの方に森林のお仕事について話をしてもらっている。このプログラムは学校だけで行えるものではなく、市民団体などの協力のおかげで、開催できている。

（５）活動の分析（学習指導要領との関連または森林環境教育の視点） 上位３項目		
3 多面的	森林からどんな恩恵を受けているか、一人ひとりに答えてもらった。森林が水、空気、災害防止とつながっていることに気づけた。また、薬や医療という面でも恩恵を受けていることは、生徒によっては非常に身近に感じるようだった。 少し前は、森林でエネルギーを得ていたことに関しては、かみくだいて話さないと、生徒たちはピントこない。	
4 現状・課題	木を切ることは悪いという意識は、ほとんどの生徒にあるが、日本と世界の森林は違い、森林を守ることを考えるとき、どこの森を守るのかということを意識することが重要であることに気づいてもらう。座学だけでは忘れてしまうが、実習もするので、特に日本の森林の課題については、ある程度の認識を定着させることができる。	
5 管理・維持	実際に間伐を行うことで、具体的なやり方や管理維持している人たちの苦労、やりがいの話も聞ける。その中で、今の自分、これからの自分に何ができるのか。どうかかわっていけるのかを考えるようになる。	
教科	項目	学習内容
		高校の授業の中で、特に学習指導要領意識はしていない。不登校だった生徒もいるので、積み立てた学習の一環というよりは、どちらかというと、学校の生徒の傾向や個々の生徒に合わせるように意識している。

（６）活動の分析（資質・能力の視点）	
3 多面的	「木を切ってはいけない」という意識が定着している生徒たちに、なぜ切ってはいけないのか、森林とはどういうものかを色々な方向から考えることで、ただ「〇〇をしてはいけない」「〇〇をしよう」というキャンペーン的な教育から脱却し、状況や場所を知ったうえで様々な方向から考える力を養う。
6 つながり	自分と森林はつながっているという意識を森林の多面的な機能を掘り下げる中で感じてもらう。森林が自分とどうつながっているのか、森林がないとどういう問題が起こるのか、改めて考えることで、生徒は色々な発見をしていく。
7 参加	のこぎりや斧をつかう間伐作業に、最初は難色を示す生徒もいる。また、互いに協力しないとできない作業もある。しかし、野外で一定の時間をすごしていると、心がほぐれ、やったことがないことに挑戦できたり、話したことがない人とも一緒に作業ができたりする。そのことで、今までより前向きになれる生徒もいる。

（７）実施後、参加者の変化
野外での活動は、初めてのことも多く、生徒たちの多くにとって印象に残る授業である。 また、ゲストスピーカーの話も、多くの生徒が親や教師以外の大人との接点が少ないので、刺激も大きい。 レポートを見ていると、多くの生徒が、森林の認識を変え、大切にしたいと思うようになり、また、ボランティアなど森林で活動することが身近になっているように思う。

YMCA学院高等学校

キャリアデザインも考え「森林体験」授業

単位制、・通信制高校の選択科目「森林体験」　15 人定員
教室座学 50 分×4 コマ　＋　野外実習　約 4 時間

①多様な森林の機能を理解する
②森林を守ることについて、きちんと考える（日本と世界の森林の違い）
③実際に森林に入り、間伐活動を体験する
④日頃、森林で活動しているボランティアや仕事をされている方から話を聞き、学ぶ

授業のポイント

市民団体の方に直接指導

ボランティアや NPO で働く人に直接話を聞ける機会。異年齢交流にもなる。

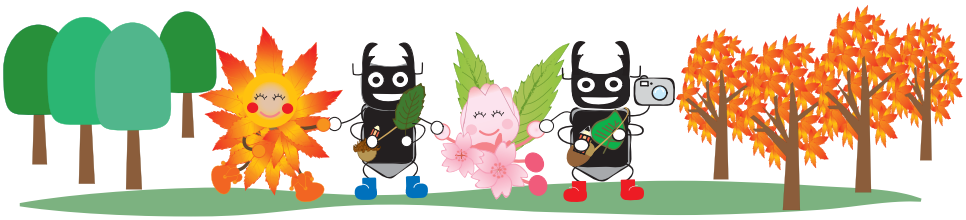
受入：
NPO 法人森林ボランティア竹取物語の会
NPO 法人里山倶楽部

森林を仕事に就く方のお話

箕面森林ふれあい推進センターの方に仕事内容、動機や仕事の感想を聞く。高卒の公務員の方の話も聞ける。

これから、就職も含めた進路を選んでいく高校生には、単に知識や日常の行動変容を求めた授業ではなく、森林を仕事や生きがいとしている人生の先輩たちに会うことで、森林保全活動を人生の選択肢の一つに加えてもらうような授業をめざしている。

Ⅳ 年度別の森林環境教育（森林 ESD）活動報告事例一覧表



ＥＳＤの視点で活動を見直してみませんか

平成27年度

森林環境教育
(森林ESD)
活動報告・意見交換会
活動報告事例

開催日時：平成28年1月25日(月)

会場：近畿中国森林管理局　大会議室

三機関共催　近畿環境パートナーシップオフィス（きんき環境館）
大阪環境パートナーシップネットワーク「かけはし」
林野庁 近畿中国森林管理局 箕面森林ふれあい推進センター

平成27年度　森林環境教育（森林ＥＳＤ）活動報告・意見交換会　活動報告事例		
事例	団体名 プログラム名 活動場所	プログラム概要
H27 1	特定非営利活動法人　キッピーフレンズ ＮＰＯ法人キッピーフレンズが行っている環境体験学習について 兵庫県三田市 兵庫県立有馬富士公園	兵庫県では小学３年生を対象に年間５日間の「環境学習体験」を実施している。学校側の要請、時間、生徒数、既に実施した環境体験学習の内容等を考慮して先生と打合せを行い実施。 （三田市有馬富士自然学習センターの委託） １．自然観察（引率型、オリエンテーリング型） ２．森のお掃除（森林整備） ３．森で得られる自然材料を使った工作 ４．顕微鏡、拡大ルーペの映像をスクリーンに拡大する ５．水辺の生き物調査 ６．学習センター展示室等の案内・解説
H27 2	京都森林インストラクター会 京都市立金閣小学校での森林教室 京都市　衣笠山国有林	京都市立金閣小学校が衣笠山で、平成13年（2001年）から森林教室を行なってきた。 平成15年（2003年）に「遊々の森」協定を締結し、巣箱かけやキノコの菌打ちなど活動の幅が広がった。 現在、3～5年生の間で段階的により詳しく衣笠山の自然を学んでいる。
H27 3	大山横手道上ブナを育成する会 水と森の分校 鳥取県伯耆町立八郷小学校 大山国有林外	４年生対象で実施。事前に学校で学習を行う。 校外学習は４回、大山で行う。 ①水の学習、②森の学習、③木を植える学習、④冬の森の学習
H27 4	岡山県西粟倉村教育委員会 『村のすごい！』を見つけよう ふるさとを元気にするＥＳＤプログラム 岡山県西粟倉村内	本プログラムは、子どもたちに西粟倉村の豊かな自然環境である、”天然林エリア”“人工林エリア”“沢エリア”を自然体験の場として活用。 また、”ふれあいグッズづくり”や”ふるさと元気給食”を通して地元の食材等や村の人と触れあう活動を提供する。 体験活動の後には、子どもたちが活動から学んだことを自分たちなりに表現しまとめる。そしてそれを元に子どもたちは村の人と交流し、お互いに学び合う活動を行う。
H27 5	学校法人　ＹＭＣＡ学院高等学校 森林体験（ＹＭＣＡ学院高等学校） 大阪府下の森林ボランティア団体活動地、ＹＭＣＡ学院高等学校	エコロジー系列の選択科目として、森林に親しむことを目的に「森林体験」授業を開講。50分×８コマ（４コマ 教室座学、約４時間 野外実習） 座学では、森林の機能や日本と世界の森林の違い、日本の戦後の森林の歴史を学び、野外実習は間伐体験を中心に行う。
H27 6	特定非営利活動法人 とよなか市民環境会議アジェンダ21 世界・自然・豊中を学ぼう！　ぴったんこ隊 大阪府　豊中市立環境交流センター 豊中市立青少年自然の家	1日目は、環境交流センター内で 森林とかかわりがある「動物」に焦点を当てた講座を2時間 2日目は、豊中市立青少年自然の家で 「森林」をフィールドにした講座を1日（7時間） 森林の現状を知る人形劇、森林の中で葉っぱを探すゲーム、森林の探検、下草や木の間伐。 3日目は、森林からの恩恵の理解を深める「水」をテーマにした講座を4時間 生活水と水のろ過実験を行い、森林が水をろ過してくれることを、実験を通して伝える。
H27 7	特定非営利活動法人 ＮＰＯクワガタ探検隊 育て！大都市の森・箕面国定自然林の守り人 大阪府箕面市　箕面国定公園滝道 外	①”四季変化”を体感できる「森林探検活動」 ②”夏休み”を活用した「カブト虫里親飼育活動」（各家庭） ③”森林昆虫紙芝居”の上演による「読み聞かせ活動」 ④”子どもスタッフ”による観光客への「自然ガイド活動」

平成27年度　森林環境教育（森林ＥＳＤ）活動報告・意見交換会　活動報告事例		
H27 8	特定非営利活動法人　イー・ビーイング 「森の体験」「森まなび塾」による森林ＥＳＤ 大阪府泉南市　紀泉わいわい村の里山、河内長野市滝畑ダムと岩湧の森、奈良県吉野町、大東市飯盛山や野外活動センター、河内長野市林業関連施設、大阪市内　など	森の体験。 大阪府内や奈良県吉野町の森林をフィールドに、 ①森について学ぶセミナー　②森林保全活動や自然観察会　③森林を楽しむ森林セラピーやウォーキングを組み合わせたプログラムを実施 森まなび塾。 奈良県吉野町の森林をフィールドに、 ①森について学ぶセミナー　②森林保全活動や自然観察会　③森林を楽しむ森林セラピーやウォーキングを組み合わせたプログラムを実施
H27 9	極楽橋森林整備プロジェクト実行委員会 「世界遺産・高野山」 極楽橋の森人(もりんちゅ) 和歌山県伊都郡高野町　高野山国有林外	南海電鉄極楽橋駅近くの森林を活用し、長カマの使い方を学習し下草刈り体験。イロハモミジの植樹。 国有林の間伐材を使用した木材加工体験を実施。 「世界遺産・高野山」までの参詣道を歩く。
H27 10	特定非営利活動法人 バイオマス丹波篠山 里山の知恵と人とを未来につなぐ 兵庫県篠山市内小学校、里山	篠山の里山の現状を知ること。そのことを周りの人に伝え意識を共有することで、地域の課題を認識し、ともに解決していく人づくりに取り組む。 ・森林環境教育に関わる地域教材化とその道のプロを先生として招聘 ・木質バイオマス利用普及啓発活動 ・多様な団体との連携による地域後継者育成、就労体験
H27 11	公益財団法人　吉野川紀の川源流物語 水源地の森ツアー（一般募集） 奈良県吉野郡川上村吉野川源流 森と水の源流館	・森と水の源流館見学、水源地の森について学習 ・水源地の森の散策 ・人工林と天然林の比較 ※小学校の校外学習、学校・企業・生涯学習グループ向けツアー、森と水のワークショップ等を実施。
H27 12	アサヒビール（株）アサヒの森環境保全事務所 アサヒビール社有林「アサヒの森」における森林環境教育 広島県庄原市比和町	「アサヒの森・甲野村山」をフィールドとして、「アサヒ森の子塾」を実施している。 国際的な森林環境教育プログラムである「ＬＥＡＦ」の考え方を導入し、プログラムを実施。 （事例報告は非掲載）
H27 13	サントリーホールディングス（株） 次世代環境教育「水育（みずいく）」 鳥取県日野郡江府町、大山	サントリー「天然水の森　奥大山」で行われる「森と水の学校」奥大山校での取組紹介。 （事例報告は非掲載）
H27 14	特定非営利活動法人　地球と未来の環境基金 広島県竹原市・植樹を通じた暮らしと森のつながり 広島県竹原市	竹原市で1994年8月に発生した山火事跡地で行ってきた植樹の取組。 地元森林組合・行政、企業と実行委員会を組織し、2004年から植樹活動を行う。 2012年からは、牡蠣養殖業者、酒造会社などと連携し森から海までの自然やくらしとの繋がりを体験できる活動を加えて展開し活動の輪を広げた。 県立竹原高校も植樹活動に参加。 （事例報告は非掲載）

教育機関と地域団体等の連携・協働のあり方や
活動の方向性をＥＳＤの視点から考えてみませんか

平成28年度

森林環境教育
(森林ESD)
活動報告・意見交換会
活動報告事例

開催日時：平成29年1月28日(土)

会場：近畿中国森林管理局　大会議室

主催　林野庁 近畿中国森林管理局 箕面森林ふれあい推進センター
共催　公益社団法人 国土緑化推進機構
特定非営利活動法人 近畿環境市民活動相互支援センター （エコネット近畿）
後援　文部科学省、近畿環境パートナーシップオフィス（きんき環境館）
大阪府、国立大学法人 京都教育大学、大阪青山大学
全国緑の少年団連盟、経団連自然保護協議会

平成28年度　森林環境教育（森林ＥＳＤ）活動報告・意見交換会　活動報告事例		
事例	団体名 プログラム名 活動場所	プログラム概要
H28 1	ＮＰＯ法人里山倶楽部 河南町立河内小学校（大阪府） 河内小学校　学校林活動 大阪府南河内郡河南町　弘川寺歴史と文化の森、茶の木原学校林	３年から６年の４学年が１年間を通じて活動。 ３年：自然と親しむ（春・夏・秋・冬） ４年：竹・昔の暮らし（竹林整備、竹食器、竹飯づくり、竹炭づくり） ５年：田んぼ・食（田植え、田草取り、稲刈り） ６年：間伐・木の暮らし（間伐、間伐材で学校林整備、記念植樹） 学校の授業で事前授業、事後授業を実施。
H28 2	一般社団法人　比良里山クラブ 大津市立志賀中学校（滋賀県） 山・里・湖，それぞれだけど，ひとつ。自然とともにある暮らしを感じ，つながってみよう！ 滋賀県　大津市立志賀中学校校区	中学1年生を対象に実施 ・事前学習 ・校区内で「里山・里地・里湖」のエリアを各２グループに分かれて学習 ・お互いのグループの学習内容の交流 ・活動内容・学んだことを新聞にまとめる （地域の公民館などでも掲示） ・エネルギーと社会・環境のかかわりを考える題材とする
H28 3	森と水の源流館 川上村立川上小学校外（奈良県） 水のつながりプロジェクト 奈良県橿原市、吉野郡川上村	プロジェクトを３回に分けて実施 第１回（6月）は、橿原市にて田植え体験と水田の生き物の観察 第２回（9月）は、川上村にて環境学習と川の生き物しらべ 第３回（10月）は、橿原市にて稲刈り体験
H28 4	下松市立米川小学校（山口県） 米川地区教育造林振興会 児童と地域住民をつなぐ森林環境教育活動をめざして 山口県下松市 米川小学校校区	約９haの学校林において、“米泉湖緑の少年隊”として「総合的な学習の時間」を中心に環境学習や身近な地域の環境保全活動に取り組む 地域住民の組織の人たちと一緒に、体験的な活動（山菜採り遠足、栗拾い、植樹）や山菜を味わう会など行う。
H28 5	庄原市立峰田小学校（広島県） アサヒグループホールディングス（株）　アサヒの森環境保全事務所 アサヒの森体験活動 広島県庄原市　峰田小学校、アサヒの森	総合的な学習の時間を中心とした授業構成で、年間指導計画による各学年の実践テーマ（平成28年度版：各学期4～6時間扱い）を作成 【３/４学年】テーマ「ふるさとじまん探検隊」 【５学年】テーマ「私たちのふるさと！産業と町づくり」 【６学年】テーマ「地域の環境を守ろう」
H28 6 (1)	箕面市立豊川北小学校（大阪府） （箕面森林ふれあい推進センター外） 森の探検隊 大阪府箕面市　箕面国有林、 箕面市立豊川北小学校	小学５年生実施 【事前】　班分けと役割分担をし、回るポイントを決める。 【森の探検隊】　探検ポイントを回って、質問の答え、感じたことなどを記入する。質問は、そのポイント周辺を観察することでわかるものや森林や昆虫・動植物、環境に関する課題など。 【学校・とりまとめ】　回答を整理し、模造紙に回答と体験して感じたことなどをとりまとめる。 【学校・発表会】　各班による発表会を実施し、発表や質疑により地元にある箕面の山、森林環境について学ぶ。
H28 6 (2)	箕面森林ふれあい推進センター 大阪森林インストラクター会 箕面ビジターセンター （箕面市立豊川北小学校） 森の探検隊 大阪府箕面市　箕面国有林、 箕面市立豊川北小学校	小学５年生で実施。 【森の探検隊プログラム】森林を活用した体験学習プログラム。 箕面国有林で、探検ポイントの設問を考え、答えや感じたことなどを記入する。各班には補助者が１名つく。 ポイントの内容は、森林・昆虫・動植物に関することや鹿による被害を考えるポイント、風や鳥の声を感じるポイントなど。 【箕面ビジターセンター】　箕面の生き物展示の見学と水生昆虫の観察、木の実を使った木工作品作りを行う。

平成29年度

森林環境教育
(森林ESD)
活動報告・意見交換会
活動報告事例

開催日時：平成30年1月27日(土)

会場：近畿中国森林管理局　大会議室

主催　林野庁 近畿中国森林管理局 箕面森林ふれあい推進センター

共催　公益社団法人 国土緑化推進機構

特定非営利活動法人 近畿環境市民活動相互支援センター　(NPO法人エコネット近畿)

後援　文部科学省、近畿環境パートナーシップオフィス（きんき環境館）

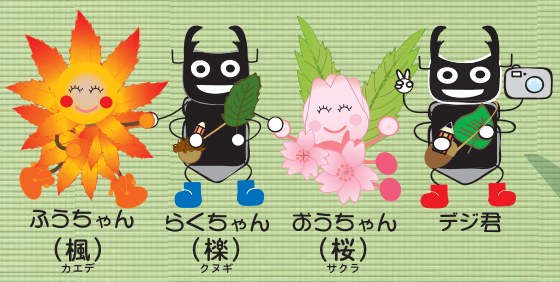
大阪府、国立大学法人 京都教育大学、大阪青山大学、全国緑の少年団連盟

経団連自然保護協議会、NPO法人森のようちえん全国ネットワーク連盟

平成29年度　森林環境教育（森林ＥＳＤ）活動報告・意見交換会　活動報告事例		
事例	団体名 プログラム名 活動場所	プログラム概要
H29 1	すみだこども園 橋本ひだまり倶楽部　（和歌山県） ・森とともだち～自然の中で共に育ちあう～ ・「みつけて　ふれて　わくわくドキドキ!!」　森あそび保育実践プロジェクト 和歌山県橋本市　ひだまりの郷内	和歌山県橋本市運動公園「ひだまりの郷」を活用した体験。 4歳児　・ひだまりの郷の森の探検 ・木工体験　くまさんペンダント ・絵本、紙芝居読み聞かせ、発表 5歳児　・ひだまりの郷の森の探検 ・竹の間伐、貯金箱作りなど ・絵本、紙芝居読み聞かせ、発表
H29 2	森のようちえんウィズ・ナチュラ 明日香森林環境教育フィールド Forest River　（奈良県） 森のようちえんから広がる、里山の人・世代・未来 奈良県高市郡明日香村栢森	森のようちえんウィズ・ナチュラは、明日香森林環境教育フィールド「Forest River」が管理する複数の里山をメインフィールドとして、野外での保育活動を行っている。職員・保護者も里山整備を手伝い、野外保育の活動場所を一緒に整備をしている。 体験活動としては、田植えや稲刈り体験、しいたけ菌打ちや野菜や果実の収穫体験、餅つき、竹灯りイベント、森林整備体験、草刈り、カマド設置などを行い、里山整備や環境教育イベントで交流を深めている。
H29 3	森のようちえん ことこと 木こりの会　（岡山県） 津山 森のようちえん ことこと 岡山県津山市神代　久米山	木こりの会の活動フィールドで、子どもの保育を実施している。 森のようちえんのスタッフが「木こりの会」の会員になり、木こりの会の活動地で、森林整備に参加。森のようちえんの活動場所としても利用している。子どもの保護者なども応援を得て、里山整備活動を活性化していきたいと考えている。 活動は、里山での活動、川での活動、たき火・野外炊飯、雪遊びなど
H29 4	公益社団法人 京都市保育園連盟 八瀬野外保育センター 京都市内の保育園・幼稚園 幼児に土と緑を 京都市左京区八瀬	京都の保育園、幼稚園の園児が遠足や宿泊保育に利用している。 遠足で遊びに来た園児に、山で見ることのできる草木、花、生き物を紹介し、山での注意事項を説明し、楽しく自然の中で遊んでもらうことを心がけている。 （パネルのみ、分析シート無し）
H29 5	吉野町教育委員会・町立わかばこども園 森林インストラクター　（奈良県） わかばこども園「森と遊ぼう」 奈良県吉野郡吉野町	吉野町内で育つ 0～15歳の子どもたちを対象とした、「木育」宣言をしてる吉野町の取組。 吉野町立わかばこども園（3～5歳児）は森林インストラクターや地域おこし協力隊と連携・協働して、吉野の森や神社等をフィールドに「森と遊ぼう」という園外活動を年に５回程行っている。
H29 6	橋本市立清水小学校 橋本ひだまり倶楽部　（和歌山県） ・郷土の森の森林体験からふるさとの自然を考えよう ・子ども力（こどもりょく）　小学生だって竹林整備!! 和歌山県橋本市　ひだまりの郷内	和歌山県橋本市運動公園「ひだまりの郷」を活用した体験。 小学校4年生で、木工体験、森林体験、間伐体験、釜戸ご飯の体験などを通して、自然環境について考えることができてきた。 橋本ひだまり倶楽部では、森林整備のボランティアや子ども達に森林体験活動を行っている。
H29 7	土地に根ざした学びの場・まるやま組 輪島市立三井小学校　（石川県） よぼし子の森　～ムラからマチへつながり、かかわり、ひろがる～ 石川県輪島市三井町	まるやま組が地域の活動の中で得た成果を、子供達へ伝えるために、2012年より三井小学校で、里山で行うプログラムを連携して行う。2016年からは、森林を軸に校区内の地域住民（林家、農家、紙漉き職人、輪島塗職人、製材所、庭師、生態学者、染色家など）を先生に、野外で五感を使って体験する取組を企画運営している。 地域住民にとっても、子供達に伝える機会を持つことで喜びや生きがいを感じている。また、小学校を中心に地域の企業、大学、行政などが連携している。
H29 8	箕面市立止々呂美小学校（とどろみの森学園） NPO法人とどろみの森クラブ　（大阪府） 里山体験学習 大阪府箕面市森町	とどろみの森学園は、中学校と小学校の小中一貫校で、１年生から８年生まで近くの里山で活動を行っている。 地元のNPO法人とどろみの森クラブと連携して、里山散策やクラフト、里山学習や里山保全など、学年に応じた活動を展開しており、６年生の活動を紹介する。

Memo

箕面森林ふれあい推進センターのキャラクター



編集・発行：林野庁 近畿中国森林管理局 箕面森林ふれあい推進センター

〒530-0042 大阪府大阪市北区天満橋１丁目８番75号 近畿中国森林管理局内
TEL ０５０－３１６０－６７４５　FAX ０６－６８８１－２０５５
ホームページ　http:/www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/
メールアドレス　kc_fureai@maff.go.jp

間伐は みどりを育てる 深呼吸

この冊子は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています